

令和6年度年度末自己評価書

令和7年1月 愛南町立城辺小学校

【評価基準】									
A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満		: 肯定率が下がったもの : 肯定率が上がったもの						考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以	判定	5年度末				
1	1 地域の人的・物的環境を活用し、家庭や地域と連携した教育を進めている。	教職員	95	A	A	93	A	A	◆高い肯定率であり、学校教育に関して地域・保護者に肯定的に捉えられている。参観日や行事での保護者の参加が多く、関心も高いと思われる。今後も学校と家庭・地域がつながりを深め、学校教育への理解と教職員の保護者理解を進めていく。 ◇来年度の150周年記念式典に向けて、今後も、教育課程における地域と関わる内容についての検討・共通理解を図っていく。
		児童							
		保護者	96	A		93	A		
		地域関係者	94	A		95	A		
学校運営協議会委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員・保護者・地域が連携して子どもたちを育てることができている。 ○ 校内・外で様々な体験学習をすることができおり、子どもたちが生き生きしていると感じる。 ○ さらに連携を深め、150周年記念行事を進めてもらいたい。 							
学校の対応		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程における地域との関わりについて整理し、共通理解を図る。 ○ 150周年記念式典に向け、地域との関わりを深めていくとともに、周知にも努める。 							
2	2 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」学校づくりに努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆高い肯定率であるが、いじめがないわけではない。今後も児童の実態や心情面の把握に努め、いじめの早期発見と解消に向けて組織的に取り組み続ける。 ◇引き続き、生活アンケートを活用したり、「SOSの出し方・捉え方」を児童に伝えたりする。日常の会話等に潜む児童の悩みを把握し情報共有を行い、いじめの早期発見に努めるとともに、共通理解を持って指導や支援にあたることができるようにする。
		児童	97	A		97	A		
		保護者	97	A		96	A		
		地域関係者	100	A		100	A		
	3 一人ひとりを重視した指導に努めている。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆保護者の肯定率が少し下がったが、教職員・保護者ともに高い肯定率である。様々な行事や参観日などで児童が活躍する姿を見ていただき、学校の取組を認めてもらっていると思われる。 ◇今後も児童一人ひとりに適した手立てを考え実践していく。うまくいったことについては継続し、改善を加えながら、一人ひとりを大切にされた教育に努める。
		児童							
		保護者	95	A		98	A		
		地域関係者							
	4 心を込めた挨拶や優しい言動ができ、規範意識のある児童の育成に努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆保護者の肯定率は少し下がっているが、地域の肯定率は上がっている。校内では6年生を中心に挨拶運動を継続している。また、児童会役員が学級での相手の呼び方について調べるなど、様々な方法で相手を意識した取組を行ってきた。しかし、地域の方や保護者から子どもたちの挨拶が今一つという声が聞かれることがあり、児童と保護者としては「できた」という意識に差があると思われる。自己満足の挨拶にならないように、相手を意識した気持ちのよい挨拶の意識を高めていく必要がある。 ◇まずは高学年が手本となれるよう、今後も指導や声掛けを継続する。また、集団下校時や集会の時などに、挨拶を意識する話をする。元気な声で挨拶ができてくる児童や登校班について登校指導時に地域の方から情報をいただき、児童に紹介できるように工夫する。
		児童	95	A		94	A		
		保護者	90	A		93	A		
		地域関係者	91	A		85	B		
4の内訳									
気持ちのよい挨拶ができてきている。	教職員	100	A	A	100	A	A		
	児童	94	A		93	A			
	保護者	87	B		92	A			
	地域関係者	89	B		80	B			
思いやりのある言動ができてきている。	教職員	100	A	A	100	A	A		
	児童	96	A		94	A			
	保護者	93	A		93	A			
	地域関係者	93	A		90	A			
学校運営協議会委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員が子どもたちや保護者の多様性を受け止めながら、熱心に関わっている。 ○ 今後も情報共有や子どもの理解に組織的に取り組み、いじめの早期発見・解消に努めてもらいたい。 ○ 挨拶はできてきているように感じる。大人が手本を示すことも必要だと感じる。 							
学校の対応		<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりを見つめ、子どもたちの実態把握や心理解に努め、いじめの早期発見・解消ができるように組織的に取り組む。 ○ 集団の力を高め、いじめを許さない雰囲気づくりを進める。 ○ 教員、児童会による気持ちのよい挨拶について啓発を継続し、相手を意識した挨拶ができるようにする。 ○ 挨拶や言動について地域からの情報収集に努め、よいことは積極的に紹介する。 							

【評価基準】				: 肯定率が下がったもの : 肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)				
重点目標		目標	評価者	目標値 肯定90%以上	判定	5年度末				
3	5 授業力の向上 (主体的・対話 的で深い学び、 個に応じた指導、ICT活用) を図る。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆全体的に高い肯定率である。A判定が継続している。校内研修を通して教職員の「深い学び」「個に応じた指導」についての理解と研究実践が進んだこと、ICTの活用が更に進んでいることが結果につながったと考えられる。また、参観日等でそれを示せたことで保護者や地域関係者の高評価にもつながったと思われる。 ◇教職員が「深い学び」と「個に応じた指導」、「ICTのより効果的な活用場面や方法」についての研究を継続する。また、授業中の個別指導・支援や放課後の補充学習をより充実させる。さらに、ホームページや学校だより、学年通信等で保護者や地域の方々に授業の様子や成果等を発信するなど、効果のあった取組を継続する。	
		児童	95	A		95	A			
		保護者	90	A		90	A			
		地域関係者	100	A		100	A			
	6 家庭学習の習慣化に努める。	教職員	100	A	C	100	A	C	◆肯定率は、教職員は高いが、保護者は大きく下がっている。運動会を1学期に開催したとはいえ、教職員にとって2学期の多忙感は大きく、行事に追われている様子も見受けられた。宿題については、学級の実態に応じた内容や量が考えられており、ほとんどの児童が提出できている。しかし、宿題以外の内容を進んで学習するまでには至っておらず、学年別の家庭学習の目安時間が達成できていないと考えられる。各学年の目標学習時間や学習の仕方など、家庭への周知が必要である。 ◇学年通信等で、発達段階に応じて目標時間や内容を意識して学習できるように児童や保護者に周知する。また、目標時間を考えて宿題を出すよう心掛けるとともに、児童の達成状況の把握に努める。あわせて、保護者にも見守りや確認、励ましの声掛けの協力依頼を継続する。	
		児童	70	C		71	C			
		保護者	65	C		75	C			
		地域関係者								
	7 家庭読書の習慣化に努める。	教職員	100	A	C	100	A	C	◆児童の肯定率が下がっている。みきゃん通帳の活用が進んでいるが、読書時間を増やすまでには至っていない。読書週間の取組で、読書への意欲が高まりが見られた時期があったが、年間通してとなると難しい面がある。親子読書や本の福袋は保護者に好評で、今後の定期的な継続の声があった。そのことが保護者の肯定率の向上につながったと考えられる。今後も、読書への意欲を高め、図書館に向かわせる手立てが必要である。 ◇引き続き朝読書、みきゃん通帳の活用を継続し、読書の習慣化を図る。また、宿題として発達段階に合わせた読書の時間を設定する。さらに、親子読書の機会を定期的に設定し、保護者にも見守りや確認の協力を依頼する。	
		児童	61	C		69	C			
		保護者	61	C		55	D			
		地域関係者								
	8 自己の体力向上・健康保持増進に取り組む態度を育成し、「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発指導に努める。	教職員	100	A	B	100	A	A	◆肯定率はほぼ横ばいである。しかし、生活習慣に困り感のある児童がおり、個に応じた指導や声掛けはもちろんのこと、家庭への啓発も引き続き必要であると考え。今年度は学校保健委員会で生活習慣の大切さについての講演を行ったが、いろいろな方法で家庭への啓発を進めていく必要がある。 ◇児童がよりよい生活習慣を身に付けられるよう、学級活動や朝の会を利用した指導とともに、個に応じた声掛けを継続する。また、通信等により、家庭への啓発に努める。	
		児童	89	B		90	A			
		保護者	88	B		87	B			
		地域関係者								
学校運営協議会委員の 所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもは家庭学習をしていると思っていても、保護者ももっとしてほしいという思いがあり、家庭学習に対する意識の違いがあるのではないか。 ○ アンケートの項目を工夫してはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習時間で評価するのではなく、「宿題をきちんとしている」「自主学習をしている」の2つの項目で行う。 ・ 家庭読書については、「時期を決めて週に1回図書室で本を借りたか」または「月に何冊読んだか」で聞く。 ○ 宿題の提出はできているので、個に応じた宿題の量、出し方の工夫が必要ではないか。(同じ宿題でも、かかる時間に違いがあるため。)教員の負担にならない程度で工夫してはどうか。 ○ 保護者が、子どもの家庭学習をしている場面を見ることができないことも関係していると感じる。 ○ 読書習慣を身に付けるために、親子読書は効果がある。回数を増やすなどの工夫をして継続するとよい。 ○ 読書活動のホームページなどでの周知、アピールが必要ではないか。 								
学校の対応		<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達段階に応じた家庭学習の目標時間や内容を児童や保護者へ周知し、意識できるようにする。 ○ アンケート項目について検討し、評価がしやすいものにする。 ○ 頻度や内容、個への対応など、できる範囲で宿題の出し方を工夫する。 ○ 親子読書を定期的実施する。 ○ 家庭学習、読書、生活習慣について保護者への啓発を継続する。 								

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満				 :肯定率が下がったもの :肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)			
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以	判定	5年度末				
4	9 地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備 家庭や地域、関係諸機関との連携・協力を努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	<p>◆全体的に高い肯定率である。行事等で学校、家庭、地域、関係諸機関が関わる機会が多くあり、またそのことを各種通信やホームページなどで継続して発信できたことで、情報共有がうまくできていると考えられる。地域関係者の高齢化が進んでいるので、世代交代と人的資源の確保が課題である。</p> <p>◇保護者や地域へホームページや学校だより等で学校の取組を発信し、地域での児童の様子や環境についての見守りを依頼する。また、学校運営協議会委員や保護者、地域の方が来校した際もしくは、登校指導時に今後の地域関係者の人的確保を含めて情報収集に努める。</p>
		児童							
		保護者	98	A		99	A		
		地域関係者	100	A		100	A		
	10 防災教育を日常化させ、主体的に防災学習に取り組む児童の育成に努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	
		児童	100	A		98	A		
		保護者	100	A		98	A		
		地域関係者	100	A		100	A		
学校運営協議会委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページや学校だよりなどの発信により、学校の取組や子どもたちの学びの様子がよく分かる。 ○ 人的資源の確保のための情報提供に協力する。 ○ 地域や他校(保育園、幼稚園、中学校)を巻き込んだ防災学習をしてもらいたい。 ○ 災害はいつ起こるか分からないので、危機意識を持ちながら、計画的に様々な訓練や学習を継続してもらいたい。 							
学校の対応		<ul style="list-style-type: none"> ○ タイムリーな情報発信に努める。 ○ 地域の人的資源についての情報収集に努める。 ○ 防災学習や避難訓練の内容や想定を工夫しながら充実させ、危機意識と防災スキルを高める。 							

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満				■ :肯定率が下がったもの ■ :肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)				
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上	判定	5年度末					
5	11 差別の現実に学ぶ研修と実践に努める。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆高い肯定率を維持している。各学級における日々の道徳科や学級活動での指導、人権・同和教育参観日での人権集会や講演などの行事や様々な活動、児童会を中心とした集会活動など、学校のいろいろな場面で人との関わりと相手を意識した言動の大切さを学ぶ機会をつくることのできた。それにより、児童の人権意識を育てることができたと考える。また、学校だより・校長室だより・学年だより・ホームページ等で、保護者・地域関係者に学校での取組をタイムリーに発信できていることも要因の一つと思われる。 ◇引き続き、児童会を中心とした集会活動などを通して児童の人権意識を育てていく。保護者・地域関係者に学校での取組をホームページや通信等で発信する。	
		児童	97	A		96	A			
		保護者	96	A		97	A			
		地域関係者								
	12 児童一人一人の教育的ニーズを把握した組織的・継続的な指導・支援に努める。	教職員	100	A	A	100	A	A		◆児童、保護者の肯定率が少し下がっているが、教職員の肯定率は100%であり、ずれが生じている。 ◇いろいろな困り感のある児童がおり、保護者を交えて話し合ったり、支援会議を行ったりして、児童や保護者の思いに寄り添い、共通理解を図りながら組織的に対応している。しかし、前進と後退の繰り返しになっていることもある。負担が偏らないように、共通理解と組織的な対応をする。
		児童	84	B		88	B			
		保護者	95	A		98	A			
		地域関係者	100	A		100	A			
学校運営協議会委員の所見		○ 継続的な教育で子どもたちの思いやりの心は育ってきていると感じる。しかし、社会では今も差別が存在するという現実があり、それらに直面した時の対処法や考え方も身に付けさせてほしいと思う。 ○ 支援の必要な子どもや家庭が増え、教職員も大変だと思うが、情報共有しながら組織的な対応ができている。努力も感じるので、無理のないように継続してもらいたい。								
学校の対応		○ 今後も差別の現実に学び、人権・同和教育の充実を継続するとともに、いじめや差別を許さない集団づくりに努める。 ○ 情報共有を心掛け、組織的な対応を継続する。								
【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満				■ :肯定率が下がったもの ■ :肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)				
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上	判定	5年度末					
6	13 校内研修やOJTを通して、資質・能力向上に関する共通理解・共通実践を行っている。	教職員	100	A	A	100	A	A	◆高い肯定率である。研修主任を中心に、計画的な取組により充実した授業研究をすることができた。また、救急救命法などの必要な知識や技能の共有化、研修したこと伝達などにより、校内研修を充実したものにすることができた。さらに、機会を生かして児童について共通理解を図り、指導や支援に生かすことが継続してできている。資質・能力向上に役立つ日々の取組になっている。 ◇今後もOJTを継続していきながら、資質向上に励み、学び合う教師集団となるよう努める。	
		児童								
		保護者								
		地域関係者								
	14 個人目標の設定に照らし合わせ、「学び続ける教職員」として自己研鑽に努める。	教職員	95	A	A	94	A	A		◆肯定率が上がっている。個々の目標に合わせて、限られた時間の中で工夫しながら自己研鑽に努めることができています。 ◇目標の簡略化により、個に応じた取組ができている。
		児童								
		保護者								
		地域関係者								
学校運営協議会委員の所見		○ 子どもたちの資質・能力の向上に直結していると思うので、今後も教職員で情報共有し、共通理解を図りながら、全体で資質・能力向上に努めてほしい。								
学校の対応		○ OJTを継続しながら、よりよい教師集団づくりに努める。								

【評価基準】			 : 肯定率が下がったもの : 肯定率が上がったもの		考察(◆)と改善方策(◇)					
A: 目標を達成 B: 8割以上達成 C: 6割以上達成 D: 6割未満										
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上	判定	5年度末					
7	14 校務支援システムの活用による、業務改善を図っている。	教職員	100	A	A	93	A	A	◆100%の肯定率である。校務支援システムの活用が業務改善につながっている。 ◇風通しのよい、話しやすい職場環境であるので、今後もサポートし合いながらICTによる効率化に努める。	
		児童	/	/		/	/			
		保護者	/	/		/	/			
		地域関係者	/	/		/	/			
	15 働きがいと働きやすさを重視し、業務改善を図っている。	教職員	100	A	A	93	A	A		◆100%の肯定率である。今後も、働きがいを感じられるような業務改善に努めていく必要がある。 ◇学校行事などの効果と負担を考慮した上で精選する、ちょっとした声を生かせるように職員会議などで定期的に業務改善を話題にするなど、業務改善を意識して取り組む。超過勤務時間が長くなっている教職員がおり、心身の健康の維持に課題が残る。みんなで声を掛け合って負担が偏らないようにする必要がある。しかし、日々の業務への多忙感は大いなので、行事の精選・業務改善等を含め、学校運営協議会でも話し合う。
		児童	/	/		/	/			
		保護者	/	/		/	/			
		地域関係者	/	/		/	/			
学校運営協議会委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 風通しのよい職場環境であるのはすばらしい。カバーし合いながらよりよい職場環境づくりを進めてもらいたい。 ○ ICTなど活用できるものは積極的に活用し、今後も業務改善に努めてもらいたい。 ○ 学校運営協議会委員にも必要な情報をマチコミで配信できるようにするなど、デジタル化できるものはしていく必要がある。 								
学校の対応		<ul style="list-style-type: none"> ○ ICTを活用しながら、業務の効率化に努める。 ○ ちょっとしたことが実現できるように、職員間の対話を重視し、業務改善への具体的な取組を継続していく。 								